

週間感染症情報

2023年34-36週 2023年8月21日より2023年9月10日まで

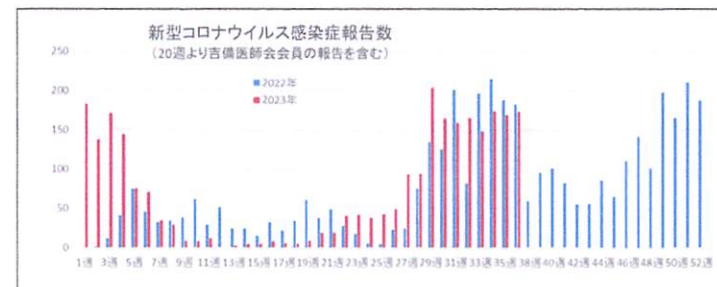
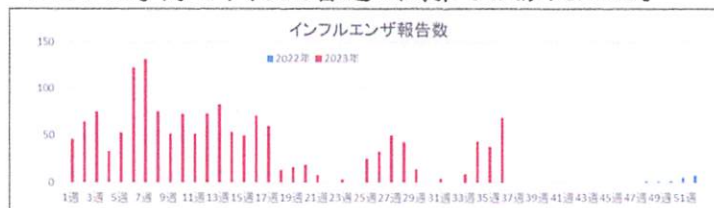
34週 35週 36週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)			
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	5	13	4
手足口病	6	7	5
ヘルパンギーナ	5	2	3
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	16	19	17
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)			
突発性発疹		1	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	5	2	2
ヘルペス性口内炎			1
アデノウイルス感染症	2	2	4
RSウイルス感染症		3	1
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス		7	11
インフルエンザ	44	38	69
インフルエンザ A	40	36	63
インフルエンザ B	0	0	1
新型コロナウイルス感染症	173	174	175

遅くなりましたが34~36週の3週間分の報告です。報道されることが少なくなりましたが、お盆休み以後170例以上の報告があり大きな流行が続いています。夏休みが終わり、体育祭・文化祭等行事があり高校生の間で流行が始まりました。その後中学生 家族内感染で小学生・乳幼児の報告が増えています。さらに、リスクの高い高齢者の報告も増えています。インフルエンザAは33週より山手小学区の施設で流行があり、家族内感染・学童保育で地域に流行が広がっています。同時流行で、コロナとインフルエンザAの重複感染例もみかけます。また、感染歴があってもウイルスの変異が早く、インフルエンザと同様予防効果は長続きせず、2回目のコロナ感染は珍しくありません。小児でも咳が続く、倦怠感、頭痛など、コロナ感染の後遺症と思われる症例はあります。多くは数か月で軽快治癒していくようです。

下のグラフはインフルエンザとコロナの2022-2023年報告数です。コロナは2022年は夏から秋にかけて報告数が多かったです。9月20日からXBB.1.5対応のワクチン接種が開始されます。感染や発症、重症化予防効果がある程度期待されます。6か月以上のすべてのの方が無料で接種できます。流行終息させるためにも、接種を検討して下さい。インフルエンザは2022年(青)の流行はありませんでした。感染対策によって流行が抑えられていました。また、流行が無かったことにより、抗体を持つ人が減少してこの時期の流行になったのではと思います。2009年のいわゆる新型インフルエンザの流行の時のパターンに似ています。しかし、インフルエンザBの報告もあります。今後の流行状況に注意が必要です。インフルエンザワクチン接種も開始されます。高齢者、リスクの高い方、乳幼児の方は接種を検討して下さい。体調不良の場合は休み、手洗い・換気に努めて下さい。今の感染状況ではマスクの着用をぜひお願いします。

マスクの着用によりインフルエンザは予防できましたが、
コロナは予防せず、まだ普通の風邪ではありません。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)

三宅内科小児科医院 三宅真砂子